

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！踏みだそう最初の一歩「オープン・ザ・ドア！」



国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Open the Door!

Vol.7



特集Ⅰ 感動体験を支える連携・協働

特集Ⅱ YES I CAN IN 信濃川 2012
～この夏 見つける 輝く自分～

- 平成 24 年度 事業報告
- 「なかまづくり」活動
- 妙高で子どもたちに自然体験を



特集I

感動体験を支える連携・協働

新しい公共型の施設運営における事業改善を目指して

笑顔、真剣な顔、苦しさに耐えて頑張っている顔、そして笑顔

苦しさに耐え仲間と共に登りきった登山、いくつもの滝を越え川の始まりを確かめにいく源流探検、深い雪の森の中を歩くスノーシューハイク、火をコントロールして仲間と一緒に作る野外炊事。自然体験活動は、子どもたちに感動をもたらしく、大きな自信を与えてくれます。

そして、集団宿泊体験。仲間と共に過ごす自然の中の生活は、共に支えあったり、時には意見がぶつかりあって折り合いをつけたりと、人間関係を学ぶ貴重な体験です。

子どもたちは、このような探究心や人とかかわる力、苦しさに耐えて頑張る力などをもともと持っています。しかし、おかれた環境や大人のかかわり方によって、それらの力が、大きく発揮できたり、逆に発揮できなかったりします。

私たちは、感動体験を通して、子どもたちのいろいろな力を引き出し、自己肯定感を高め、笑顔いっぱいになるように支援していきます。

このような感動体験を支えている「指導者・ボランティア」や「プログラム」「支援のあり方」「活動環境」「予算」等といった内容を、より質の高いものにするために「新しい公共」の理念を取り入れています。民間、大学、青少年団体、行政、企業、関係機関の皆様との連携・協働ができるよう力を結集し、より質の高い事業作りを目指していきます。

今回ご覧いただきます各種の事業は、地域の皆様や関係機関の皆様との連携・協働で改善を図り、よりよい体験活動になるように取り組んだものです。つまり自然の家が持っている教育機能と、民間や各種団体が持っている教育機能を統合して生まれた教育事業です。

また、私たちは開発したプログラムや、お願いできた指導者・ボランティア、指導方法などを、研修支援事業に生かし、学校や青少年団体の応援団として、子どもたちの自信に満ちた笑顔を引き出せるように努力してまいります。

ご支援・ご協力いただいております地域の皆様、ご協賛いただいております企業の皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。



YES, I CAN IN 信濃川 2012

～この夏 見つける 輝く自分～

日本一の川で
日本一の体験と感動を

全長367km、日本一長い川「信濃川」をステージとした11泊12日の移動型長期チャレンジキャンプを行いました。本事業は、「体験活動を通じた青少年の自立」を目的とし、そのために必要な力を引き出すための資質や条件を明らかにし、普及啓発する3カ年計画の中の1年目の取組です。

子どもたちが「困難に直面した時、自分のすべきことが分かり、そのことに向かって一歩を踏み出して行動できる力」を「実行力」と定義し、キャンプの柱としました。子どもたちも「実行力」を効果的に引き出すためのプログラム開発とその検証を行いました。

YES I CAN 2012 活動活動表

日	時間	内容	食事	宿泊	備考
7月25日	6:00	開校式	朝食	白木	川上村 梓山公民館
7月25日	7:00	川上村へ移動	朝食	白木	川上村 梓山公民館
7月26日	7:00	登山	朝食	白木	川上村 梓山公民館
7月27日	7:00	上田へ移動	朝食	アクアプラザ上田	アクアプラザ上田(テント)
7月28日	7:00	蕨山へMTB	朝食	蕨山	蕨山(蕨山)
7月29日	7:00	十日町へMTB	朝食	十日町	十日町市つり子公園(テント)
7月30日	7:00	長岡へMTB	朝食	長岡	長岡(緑地公園)
7月31日	7:00	三条へEポート	朝食	三条	三条(グリーンスポーツセンター)
8月1日	7:00	小湊戸へEポート	朝食	小湊戸	新保研修センター
8月2日	7:00	いかに作り	朝食	小湊戸	新保研修センター
8月3日	7:00	ふるさと村までいかだ	朝食	小湊戸	新保研修センター
8月4日	7:00	河口までいかだ	朝食	小湊戸	新保研修センター
8月5日	7:00	砂高へ移動	朝食	砂高	大湫少年センター
8月5日	7:00	閉校式	朝食	砂高	大湫少年センター

1ST STAGE 第1ステージ 7月25日～7月26日 甲武信ヶ岳登山

信濃川の源流は、日本百名山の一つ甲武信ヶ岳(標高2,475m)の麓に位置し、子どもたちの足で約3時間半、源流から山頂までが約1時間の行程です。他の3つのステージと違って、登山は日々活動を繰り返すことはできません。そのため、休憩ごとに話し合い活動を取り入れ、歩く速さや時間の計画修正、励まし合いの言葉等を行いました。源流に到着し、キャンプのスタートを確認しました。

その後の話し合いでは、多くの子どもが疲労感から引き返すことを望んでいました。しかしグループでの話し合いの結果、すべてのグループが頂上をめざし、再出発しました。

往復で約8時間半の時間をかけ、大きな疲労感もありました。しかしその分参加者の達成感は大きく、今後の活動の自信となりました。



2ND STAGE 第2ステージ 7月27日～7月30日 MTBチャレンジ

長野県上田市～新潟県長岡市間約170kmをMTBで移動しました。MTBに乗って宿泊地を目指す活動を3日間繰り返しました。この第2ステージから、グループが立てた計画を基に活動しました。できるだけ子どもが隊列の先頭に立ち、子ども自身が休憩の場所、タイミングなどを考えながら走行しました。3日間の活動内容は同じです。その中で、日々計画の修正をし、うまくいかなかったことを改善したり、よかったことを互いに認め合いながらさらによりよくしていくこととするように、体験したことを次に生かせる場面を設定しました。

3日間の中で子どもたちは大きく成長し、3日目には真境の峠越えを含む難コースを全員が走破しました。

YES, I CAN!!



活動計画

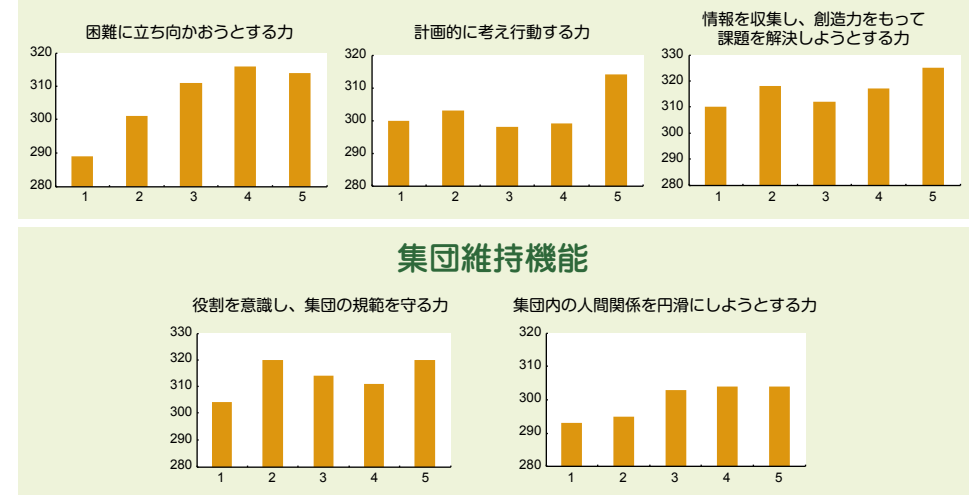
子どもたちがもつ、「実行力」を効果的に育成するため、これまで、国立妙高青少年自然の家が長期キャンプで培ってきた教育手法を十分に活用しました。12日間を4つのステージに分け、それぞれのステージで課題解決活動を設定しました。またそれぞれのステージの中で、活動が繰り返され、日々の振り返りが生かされるように計画しました。そして実行力の評価については、昨年度完成した、「リーダーシップ測定尺度質問紙」を活用しました。

活動計画の作成にあたっては、国立自然環境アウトドア専門学校副校長、永井将史様よりアドバイスをいただきました。指導スタッフ(ポラントニア)も、国際自然環境アウトドア専門学校に協力いただき6名の学生に協力いただきました。

(株)カヤバにも協賛いただき、菅場和彰様より、マインドマップ研修を行っていただきました。



リーダーシップ5つの力



※グラフの見方
 ・縦軸は「リーダーシップ測定尺度質問紙項目」の合計点を累計した数値である。
 ・横軸はアンケートを実施した時期を表す。1…1ステージ前（7月25日・「出会い」）、
 2…1ステージ後（7月26日・登山後）、3…2ステージ後（7月30日・MTB後）、
 4…3ステージ後（8月2日・E-ボート後）、5…4ステージ後（8月5日・いかだ後）

評価（リーダーシップ測定尺度から）

今回のキャンプでは、ステージごとに付けた力をねらいとして設定するのではなく、その活動に十分浸らせること、そして振り返り等の支援やスタッフの関わり方については各ステージで方法を変えることなく、一貫した支援を行いました。

その結果5つの力すべてについて向上がみられましたが、中には、別な支援を行っていればもっと力が育成されたのではないかという項目もあります。次年度へ向けての課題としていきたいと思います。



3RD STAGE
 第3ステージ
 7月31日～8月1日 E-ボートチャレンジ

長岡市から新潟市までの約55kmを移動しました。このステージから実際に川の中に入り川を下ります。困難な状況の中で、互いの信頼関係を築きながら協力する場面を設定しました。ほとんどの参加者がオールを漕ぐという活動は初めての体験でした。一人の力では進まないというところに気づき、必然的に息を合わせ、力を合わせる場面が増えていきました。

暑くて狭いボートの中で半日以上、一緒に過ごします。その中で多くのトラブルも生まれました。全員で話し合い、それを乗り越えながらグループの絆を深めていきました。

YES, I CAN IN 信濃川 2012 を振り返って

「2学期になり、クラスで司会に挑戦しました。」
 「自分から友達を誘えるようになりました。」
 「いろいろなことも挑戦できるようになりました。」
 「いろいろな多くの参加者の声や、
 「体力、考え方、言葉遣い、すべてに成長がみられます。」
 「息子の成長がりに感動しました。」
 「物の考え方がびっくりするくらい大人になりました。」
 「兄弟に対する接し方がまるで変わりました。」
 「いろいろな多くの保護者の声から、参加者には確実な成長が現れています。ちょうど時期がロンドンオリンピックと重なりましたが、オリンピックに負けないうらやまを乗り越えて、熱い夏になりました。」



4TH STAGE
 第4ステージ
 8月2日～8月4日 手作りいかだチャレンジ

各グループごとに、杉板6枚とタイヤチューブ6本を組んで、いかだを作り上げました。そして子どもたち6人だけで乗り込み、新潟みなとびあまでの約25kmを3日間で移動しました。このステージは、第1ステージから第3ステージまでに身に付けた力を発揮するステージです。そのために、より困難な活動としていかだを自分たちで作り、そのいかだで川を下る活動を設定しました。いかだの時は約1km、灼熱の暑さとなかなか進まないイライラからストレスがたまり、衝突が起こりました。それを6人で解決しながらゴールを目指しました。最終日、みなとびあに飛び込んできた参加者の顔は皆、爽やかな笑顔で、そして自信に満ちあふれていました。

最終日、12日ぶりに家族と再会を果たしたその笑顔は、全員が輝く自分に出会えたことを物語っていました。



子どもと親の学び

1. 子どもと親で、一緒に自然体験ができる



子どもと一緒に遊べることは、大きな意義があります。
子どものメリットは、親と一緒に遊ぶことで、**安心して思いっきり遊ぶ**ことができます。子どもは見守られている安心感をもとに、**積極的に遊びを展開**していきます。
親のメリットは、子どもの多様な**感受性に気づき、挑戦し木登りができるなどの力を改めて感じる**ことができることです。「日常の姿」とは違う姿から多くのことを学びます。

2. 子どもが夢中に遊ぶ。



子どもは、豊かな自然環境の中で様々なことに興味を持ち、確かめたり、身体を使って自然と**直接かか**ることで**喜びや満足感**を得ます。そして**もっとかかわりたい、知りたい**などの**意欲、関心が高まり**、さらなる探索活動が展開されます。この中で仲間や保育士との関係性も必然的に深まります。このように豊かな自然環境の中では**「興味→直接体験→知る(喜び)→意欲や関心が高まる」**の流れが繰り返され、子どもたちが飽きることなく夢中に遊ぶことができます。

3. 自主性や社会性がはぐくまれる。



キャンプでは自分で動かなければ楽しくありません。子どもは、仲間との遊びを**楽しむために自ら動いて**いきます。より楽しい活動になるよう、子どもたちへの援助では「何か楽しそうだな、ワクワクする」という**環境設定も大切**です。また、キャンプ中は集団で行動しています。食事や就寝など自分一人のわがままは通用しません。仲間と協力して布団を準備し、親と離れて寝ることなど**日常では得にくい体験**をします。その中で**仲間の姿をまねたり、仲間から認められる**などを通して**協調性や社会性を身につけて**いきます。

4. 保護者プログラム



保護者プログラムとして3つの柱を準備しました。一つは子どもの活動時に、観察を行うことです。子どもと離れ、客観的に子どもの行為を記述していきます。この記述によって**子どもの姿を再認識**することにつながります。二つめは、夜の時間に、職員による、幼児期における自然体験活動の意義のレクチャーを行ったことです。活動写真や今までの様子、子どもの変容を伝えることで、**自然体験活動の理解を深める**ことができました。三つめは、読み聞かせ。普段、親は読み聞かせをする側ですが、**聞く側を経験**することで、声のトーンや情緒豊かに語りかけることなど様々なことを学びました。
若い親世代への**子育て支援の視点**からも、親を対象とした活動は有効でした。

妙高市職員(保育士)がキャンプを運営する。～新しい公共の視点で～

国立妙高青少年自然の家は、地域密着型の施設として関係機関と連携し、協働での運営を目指しております。
具体的には、幼児キャンプで妙高市教育委員会の協力を得て、新任保育士3名が幼児キャンプに参画しました。企画から運営、事業の評価まで一連の流れを自然の家の職員と共に実施しました。協働運営のメリットがいくつかが明らかになりました。保育士が運営者であることは、参加者の子どもたちや保護者に安心感を与え、専門的な援助が保証されます。
さらに、保育士の学びとして、自然体験活動の理解が深まり、援助や運営の在り方にゆとりが出てきました。自然の家の職員も、保育士の子どものかわりから、援助の在り方や幼児理解について力を付けることができました。

先生方からのコメント

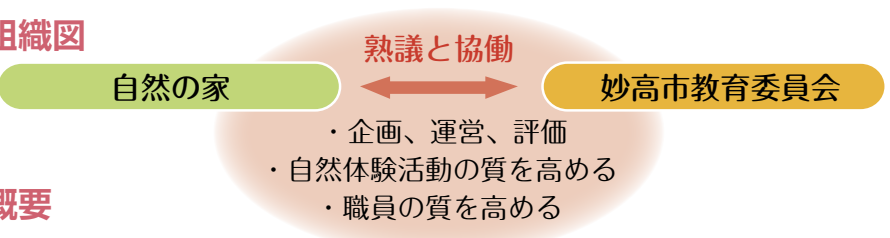
「協働運営のメリット」
妙高市教育委員会 園指導主事 宮田 友子
「幼児期にふさわしいプログラム開発」に市内の幼・保育園が参加・協力して早3年目を迎えます。今年度は締めくくりに年でもあり、新たな試みとして「自然体験活動キャンプ」に、当市の新採用職員3名が参加し、自然の家の職員と一緒にスタッフとして事業運営を行いました。
キャンプ当日、初めて出会う子どもたち。少々の不安をかかえながらも無我夢中で子どもたちに向かい合う保育士達だが、場面・場面で誰が指揮を執るのかわからず、動きがとまる。指示を待つ姿が頻繁であった。しかし、回を重ねることに3名の保育士同士がお互いの役割を確認しながら、しっかりと動けるようになってきた。このように周りを見ながら自発的に動く姿は、幼児キャンプのみならず日常保育にも反映され、「幼児が夢中になって遊ぶ」環境づくりに良い影響を与えています。それがひいては組織の活性化にも繋がり、当市としては嬉しい限りです。

妙高市立斐太南保育園 丸山 奈帆子 先生
毎回のキャンプではいろいろな子どもたちとの出会いがありました。楽しみでもありましたが、知らない子どもたちとかかわるといことは、私にとって難しいことでした。しかし、キャンプ運営の経験を重ねていくことで自分に自信が付き、積極的に子どもたちとかかわれるようになってきたと実感しました。残りの冬キャンプでも参加する子どもたちとたくさんコミュニケーションをとり、楽しいと思ってもらえるようなキャンプになるよう運営スタッフとして頑張りたいと思います。

妙高市立第一保育園 阿部 由梨子 先生
初めて幼児のキャンプの運営に携わりました。当日は子ども達と暗くなってから楽しめる自然活動、寝泊まりする体験、慣れない場での寝具の準備など普段なかなか体験することのない体験ができました。初めて会った幼児、保護者にどれだけ満足のいく対応ができるのか不安も感じたが、回を重ねることに少しずつスムーズに行えるようになりました。また、活動の前に簡単なゲームを取り入れることで運営者、参加者同士がより親しみやすくなりました。今後日常の保育にできることは取り入れ、しっかりと自分の力として身に付けていきたいと思ひます。

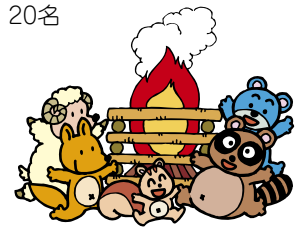
妙高市立妙高保育園 東條 沙也加 先生
初めて運営側の立場で事業を展開させる経験をしました。打ち合わせや反省では自分の意見や考えを発言できるように心がけ、運営面では積極的に声を出して参加者やスタッフとコミュニケーションを図ってきました。キャンプ運営をしたことで自ら進んでやってみようとする力や姿勢を身につけ、以前よりも行動できるようになったと感じます。子どもの行動や言葉から子どもを見取る目を養い、それに応じた臨機応変な対応は保育士として必要なことであり今後さらに身につけていきたいと思ひます。本当に貴重な体験をさせてもらうことができ、ありがとうございました。

運営のポイント



新しい公共型の組織図

- 幼児キャンプの概要**
- 1年間を通して4回実施しました。
- 春:** 平成24年6月15日(金)～6月16日(土) 1泊2日 本館宿泊 16名
主な活動 ナイトハイキング、森で遊ぼう
 - 夏:** 平成24年8月3日(金)～8月4日(土) 1泊2日 キャンプ場宿泊 20名
主な活動 キャンプファイヤー、源流探検
 - 秋:** 平成24年9月21日(金)～9月22日(土) 1泊2日 本館宿泊 36名
主な活動 ナイトハイキング、森で遊ぼう、焼きいも大会
 - 冬:** 平成25年2月1日(金)～2月2日(土) 1泊2日 本館宿泊 46名
主な活動 ゲーム、絵本、深雪探検



担当より
子どもたちはキャンプを通して、成長していく“きっかけ”を自分で見つけていくと思ひます。キャンプに参加して、ガラッと変わるわけではありません。
しかし、子どもなりに小さな冒険を繰り返す挑戦し、失敗したり成功したりするなど直接身をもって体験することが揺るがない自信につながると思ひます。今後もキャンプを通して豊かな感性や、多様な体験を積み重ねてほしいと思ひます。

ひまわりキャンプ



このキャンプでは、家庭や社会により心や身体に様々な課題を抱えた子どもたちが、妙高の豊かな自然の中で思いっきり活動し、自然の中で心を解放していくこと、自らプログラムの企画立案に携わることで、主体的に活動にかかわるだけでなく、仲間とともに作り上げる喜びを感じ、今後の自立へのエネルギーを養うことを目指しています。

「妙高ひまわりキャンプ」は、養護施設と連携し、上越教育大学、上越児童相談所からの支援を受け実施した2泊3日のキャンプです。夏・冬の年2回実施し、今年で3年目となります。

事前に相談して決めていきます。(写真1) また、プログラムの運営も子どもたちが行っています。

活動プログラム

時間帯	5時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
8/8(水)	晴天						到着	式・IKR	準備	昼食	びっくりランチ				ファイヤー(かえて広場)	森小屋づくり	就寝		
8/9(木)	晴天	起床	片付け準備	朝のついで	朝食	部屋点検	森小屋づくり①	昼食	森小屋づくり②	自習時間準備(ベガス広場)	夕食	ナイトハイク					就寝		
8/10(金)	晴天	起床	片付け準備	朝食	テント点検	森小屋こわし	陶芸	昼食	式・IKR	出発									



(写真1) 相談の様子

リーダーのH男の感想

妙高自然の家に来た時、雰囲気がとてもよく安心しました。活動では、前回と比べると一人ひとりが責任をもって、一つ一つの活動に取り組んでいたと思います。高3になって、リーダーという立場になり、少しずつ責任の大切さ、重さを感じられたと思います。

今回のキャンプでは、活動に意欲的にかかわっている子どもたちの姿が多くありました。班ごとに事前の打合せで役割分担を明確にしたことで、個人の責任が生まれたことが大きな要因と思われる。仲間の頑張っている姿も、他の子どもたちの気持ちに良い影響を与えたように思います。

このキャンプが参加者にとって重要な意味をもちはじめているようです。

びっくりランチ(野外炊事・詳しくは21ページ参照)は、机の上に広げられた材料を見て、相談しながら楽しく作る料理を決めました。材料を切ったり、道具を準備したりと、分担していた役割をそれぞれが行っていました。できた各班の料理をみんなで試食しました。

キャンプファイヤーでは、点火の儀式やレクリエーションの流れを決め、その責任をしっかりと果たしました。活動の中で、これまでの生活を振り返る場面もあり、自分の気持ちを素直に表現しました。

森小屋づくりでは、その設計図を見ながら、それぞれの班にあった大きさの森小屋をつくりました。倒れないように筋交いを入れたり、平らになるように床を調整したり、自分たちで工夫しました。リーダーが声を出して作業を進め、みんなで協力して作り上げました。

今回のキャンプでは、活動に意欲的にかかわっている子どもたちの姿が多くありました。班ごとに事前の打合せで役割分担を明確にしたことで、個人の責任が生まれたことが大きな要因と思われる。仲間の頑張っている姿も、他の子どもたちの気持ちに良い影響を与えたように思います。

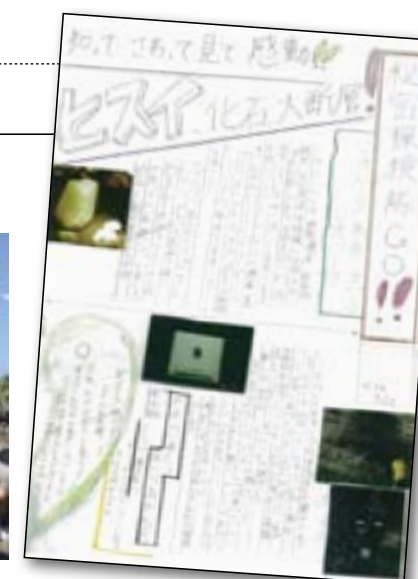
子どもたちの様子



フォッサマグナミュージアム(化石の谷)



弁天岩



9月15日(土)~17日(月)

大地の秘密探検隊

ジオパークの宝物をゲットだぜ!

糸魚川ジオパーク協議会と共催で実施した大地の秘密探検隊。県内各地と栃木県、埼玉県、富山県、滋賀県から総勢20名(小学校5・6年生)の岩石好き、化石好き



ジオまる



小滝川ヒスイ峡

子どもたちが糸魚川世界ジオパークに集まりました。子どもたちは、2泊3日のキャンプで、ジオパークの不思議を求めて西へ東へと移動しました。観察ポイントで出されるミッションをクリアするために、フォッサマグナパークの糸魚川-静岡構造線断層粘土に触れたり、小滝川ヒスイ峡でヒスイの原石を観察したりしました。また、大きなメノウや3億年前の化石探しに、胸をワクワクさせました。箱一杯の宝物を前に、とてもうれしそうでした。

最終日に書いたジオパーク新聞には「今まで石はあまり気にならなかったけど、沢山知らない石があるんだなとびっくりした。楽しく学習できてとてもよかったです。」「感動!発見!の楽しい三日間でした。東日本と西日本の境目に立ったときには、なんだか不思議な気持ちになりました。この体験は一生の宝物になると思います。」「など、このキャンプの思い出が沢山つづられていました。



ぬーな

活動プログラム

時間帯	5時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
9/15(土)	晴天						受付	開会式	移動	フォッサマグナミュージアム	移動	青海中学校セミナーハウス	移動	とん汁づくり	荷物整理	夕食	休憩	入浴	就寝
9/16(日)	晴天	起床	荷物整理	朝のついで	朝食	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動
9/17(月)	晴天	起床	荷物整理	朝のついで	朝食	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動



指導者養成事業

妙高アドベンチャー プログラム指導者養成研修

スキルアップ研修…5月25日(金)～26日(土)
指導者養成研修…6月8日(金)～6月10日(日)に実施

妙高では、「野外炊事」や「オリエンテーリング」、「源流探検」などの自然体験活動を通して、人間関係を深めることができます。この事業は、自然体験活動の効果をさらに高める妙高アドベンチャープログラム(通称MA)の指導者を育成します。またすでに指導にあたっていている人たちにとって、より質の高い指導ができるような研修を行います。

今年「指導者養成研修」には、学校の先生方や教員をめざす大学生など12名が、また「スキルアップ



研修」には活躍中のMA指導員の方10名が参加しました。講師は、それぞれプロジェクトアドベンチャージャパンからお招きしたトレーナーの方です。MA指導のために必要な知識や指導技術をわかりやすく教えていただきました。

ここで学ばれた皆さんには、今後MAの指導員として、また学校におけるよりよい集団作りの一環として、この研修を生かしていただけることを大いに期待しています。

妙高ネイチャープログラム 指導者養成研修会

6月29日(金)～7月1日(日)に実施

この事業は、環境教育等の講義・演習や妙高ネイチャープログラムの体験を通して、環境教育の指導者としての必要な資質や指導力の習得を目指しています。

今年は、上越教育大学の准教授や地域の専門家を講師としてお招きすることにより、現地での実習も含めより専門的な内容に踏み込むことができました。内容と指導者は以下の通りです。

「学校現場における環境教育のあり方」

上越教育大学特任准教授 渡辺径子 氏

「妙高火山」

上越教育大学准教授 大場孝信 氏

「星空観察」

上越天文教育研究会会長 村山 暁 氏

「源流探検」

自然観察指導員 澤田賢一 氏

「ブナ林探検隊」

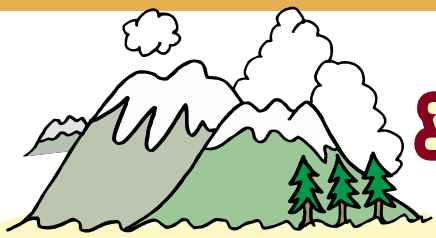
上越森林管理署流域管理調査官 梨本正昭 氏

最後に研修のまとめとして行った源流探検のプログラム立案では、グループごとに活発な意見交換が行われました。2日間の研修内容をもとに、各参加者の発想の広がりを感じることができた。自然体験の楽しさを子どもたちに伝える指導者として、活動の幅を広げてくださることを期待しています。

「環境を学習するという大きなテーマが感じられ、ストーリーのあるプログラムだった。」



平成24年度



MYOKO

ポランテア養成所

(兼：文部科学省自然体験指導者養成事業 補助指導者養成研修)

5月19日(土)～20日(日)に実施

「ポランテアのお兄さんが、いっぱい遊んでくれて楽しかった！」

「一人ではできなかったことも、ポランテアのお姉さんが一緒にやってくれたからできた！」

これは、事業に参加した子どもたちの感想です。子どもたちにとって、ポランテアのお兄さん・お姉さんの存在は、とても大きなものだったようです。

今年で6回目を迎えたこの事業は、近隣の学生22名が参加しました。ポランテア活動の意義や青少年教育について学んだり、応急手当の方法やリスクマネジメント



について実践したりと、内容の濃い1泊2日となりました。

この「ポランテア養成所」に参加し、申請すると、「法人ポランテア」として登録することができます。「法人ポランテア」は、全国にある28カ所の国立青少年教育施設で行われている各事業で運営や指導など、様々なポランテア活動を行うことができます。

法人ポランテアへの登録は、15歳以上(中学生を除く)で青少年教育に関心のある方なら、どなたでもできます。ぜひ、ここ妙高青少年自然の家で、新しい一歩を踏み出してみませんか。

自然体験活動指導者養成研修

文部科学省自然体験指導者養成事業
全体指導者養成研修「体験活動推進プロジェクト」

8月17日(金)～19日(日)に実施

近年、青少年の社会性や豊かな人間性の育成を図る上で重要な、自然体験活動などの機会が減少していると感じられています。すべての子どもたちに体験活動の機会を提供するためには、地域で体験活動の機会を増やしていくことと併せ、学校での体験活動を充実していくことが求められます。新しい教育課程に取り入れられた自然体験活動を中心とする長期集団宿泊活動が円滑に実施されるためにも、学校や地域が実施する活動を支援・協力する人材の養成が不可欠となります。

この事業は、教育効果の高い自然体験等の活動の機会を提供するために、プログラム企画立案や活

動の指導・助言などを行う指導者の養成を目的として実施し、大学生、社会人など26名の方が参加されました。「体験活動の意義と青少年教育施設の役割」などの講義、「人とかわるプログラム・自然と関わるプログラム」の実習、「活動プログラムの企画・立案」の演習などを行い、体験活動指導者としてのスキルを学びました。閉講式では所長から参加者全員に修了書が手渡され、「自然体験活動指導者」として登録されました。自然体験活動指導者の活躍により、子どもたちの体験活動が、より豊かであり多くの環境が整うことを願っています。



アセアン加盟国 中学生招聘交流事業

期間 平成24年11月20日～11月30日(10泊11日)

「はじめのわんぱくキャンプ」は、小学校3・4年生を対象に行う事業です。豊かな自然の中で自らの身体を使う体験活動を通して、仲間とのかかわりから生まれる思いやりの心や自立心を育むことを目的としています。

3回シリーズのこのキャンプ。今年度は3回とも同じメンバーでキャンプを行うことで、回を追うごとに子どもたちの成長をねらいました。

「はじめのわんぱくキャンプ」は、小学校3・4年生を対象に行う事業です。豊かな自然の中で自らの身体を使う体験活動を通して、仲間とのかかわりから生まれる思いやりの心や自立心を育むことを目的としています。

3回シリーズのこのキャンプ。今年度は3回とも同じメンバーでキャンプを行うことで、回を追うごとに子どもたちの成長をねらいました。

参加者の様子

この事業は、文部科学省委託事業で、アセアン加盟国のインドネシア・マレーシア・フィリピン・タイ・ミャンマー・カンボジア・ベトナム・ラオスから、日本に興味・関心のある中高生を招聘しました。2年目となる今年度は、ミャンマーとラオスの中高生12名が妙高を訪れました。参加者は、地域の特性を生かした自然体験、文化体験、日本の青少年との交流体験を通して、日本に対する理解の増進を行いました。また、交流した日本の中学生は国際的視野の醸成、次世代リーダーの養成をはかりました。



民泊したご家族と記念写真



初めての雪!



書道にも初挑戦!



中学生との意見交換会



おもてなし武将との交流



着付けも体験しました

プログラム	
期 日	内 容
11月20日(火)	成田空港到着・移動 ウェルカムパーティー
11月21日(水)	上越教育大学訪問 講義及び演習・大学生との交流
11月22日(木)	妙高市立妙高中学校訪問 日本文化体験・中学生との交流
11月23日(金)	日本文化体験 うどん作り・民話体験
11月24日(土)	民泊プログラム
11月25日(日)	日本文化体験 クラフト(リース作り)・焼きいも体験
11月26日(月)	日本文化体験 春日神社見学・雁木通り商店街見学
11月27日(火)	妙高市立妙高中学校訪問 意見交換会
11月28日(水)	東京プログラム
11月29日(木)	東京プログラム
11月30日(金)	出国

はじめのわんぱくキャンプ

ちょっと冒険、ちょっぴり大人!



「チームわんぱく」大集合!

自然の中で 仲間と過ごす

「はじめのわんぱくキャンプ」は、小学校3・4年生を対象に行う事業です。豊かな自然の中で自らの身体を使う体験活動を通して、仲間とのかかわりから生まれる思いやりの心や自立心を育むことを目的としています。

3回シリーズのこのキャンプ。今年度は3回とも同じメンバーでキャンプを行うことで、回を追うごとに子どもたちの成長をねらいました。

チームわんぱく

夏は森探検と野外炊事(カレーライス)、秋は源流探検とオリエンテーリング、冬は雪上活動がメインの活動となりました。グループで協力しながらの取り組みや、ミッションをクリアするなどの目標達成に向けてがんばりました。

回を追うごとにたくましさを増していく子どもたち。共同生活の中で、あいさつや時間のけじめ、仲間への思いやりなどを着実に身につけ、「わんぱくキャンプ」というチームができあがりました。

源流だって、ひとまたぎ!



自分で作ったスプーンで食べるカレーは最高!

わんぱくキャンプ プログラム

夏 7月21日(土)～22日(日)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目				式	アイス ブレイク	昼食		森の探検		マイスプーン 作り	夕食	キャンドル セレモニー		入浴	就寝		
2日目	起床	清掃	つどい	朝食		野外炊事 カレーライス		自由 遊び	式								

秋 10月13日(土)～14日(日)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目				式	アイス ブレイク	昼食		源流探検		ミーティング	夕食	キャンプファイヤー ナイトハイク		入浴	就寝		
2日目	起床	つどい	朝食		オリエン テーリング		野外炊事 焼きそば	式									

冬 2月9日(土)～10日(日)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目				式	アイス ブレイク	昼食		深雪体験 かまくら・雪灯ろう		移動	夕食	雪灯ろう 点火		民話	就寝		
2日目		つどい	朝食		スノーシュー・そり	式											

国立妙高青少年自然の家では、10月8日(体育の日)に子どもゆめ基金体験の風リレーシヨンシップ事業「感謝祭」が開催されました。

本事業は、日頃お世話になっている多くの利用の皆様へ感謝の気持ちを込めて、他施設と連携し、体験活動の必要性を発信する「体験の風をおこそう」運動の一環として実施されました。

好天に恵まれた当日は、気球搭乗体験、ステージ発表、子ども体験遊びリンピック「寝袋早たみ大会」、屋台村、クラフト、妙高プログラム体験会などが行われ、2600人を超える親子連れでにぎわいました。

今年度の大きな目玉は、気球搭乗体験でした。気象状況に左右されやすいので気球を上げられるかどうか心配されましたが、当日は早朝からすばらしい快晴となり、無事に実施することができました。大きな気球は、妙高山を背景に悠々と浮かび上がり、秋の朝日を受けて輝いていました。風速などの天候の状況をみながら、小学生以下の子ども達約370人が順次搭乗し10分程度のフライトを楽しみました。搭乗した子ども達からはじめて見る空からの景色に歓声が上がると、大人気のイベントとなりました。

ステージ発表では、正面玄関前ロータリーに特設された屋外ステージにおいて、地元妙高市の保育園の鼓隊、小学校・中学校の吹奏

国立妙高青少年自然の家

子どもゆめ基金体験の風リレーシヨンシップ事業

他にも、妙高プログラム体験では、「源流探検」や「ネイチャーゲーム」が実施されました。

源流探検では、周辺を流れる小川を探り、水辺を好む植物や水生生物を観察しました。ネイチャーゲームでは、自然物(周辺の草木や地形等)を使ったゲームを通して、自然に親しむ活動をしました。



楽部の演奏や大学生によるアカペラとストリートパフォーマンスが盛大に行われ、日頃の活動の成果を披露しました。また、「プロマジシャンKAN」によるマジックショーが行われ、KANさんの手際の良い鮮やかなマジックショーに子ども達をはじめとする多くの観客が魅了されました。ショー後に行われたKANさんのサイン会には長蛇の列ができるほどの人気ぶりでした。

また、「体験の風をおこそう運動」の一環



正面玄関前のロータリーでは、屋台村が設置されました。メニューは、地元の食材を使った「妙高華麗米カレー」や「妙高豚汁」などが大人気で、昼時は長い行列ができました。実際に、来場者の皆さんが調理を体験することが出来る「カートンドック」では、できたてのホカホカドックをおいしそうに頬張っていました。他にも「わたあめ・焼きそば・たこやき・肉まん・フライドポテト」などの人気メニューに多くの来場者が舌鼓を打っていました。

今年度も感謝祭において、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。これからも、妙高青少年自然の家がより多くの人達に愛されますよう、努めていきたいと思

として、子ども体験遊びリンピック「寝袋早たみ大会」が行われました。30名以上の小学生が参加し、タイムを競って熱戦が繰り広げられました。

クラフトブースでは、国立能登青少年交流の家から「木板鍋敷き」、国立乗鞍青少年交流の家から「コースター」、国立立山青少年自然の家から「ドラングリランド・ウッドディープレート・クルクルシヤボン玉」、国立若狭湾青少年自然の家から「若狭の塗り箸」の各クラフトブースを設置していただきました。また、当所からは「白樺の壁掛け・小枝の毛ツクン・マイスプーン・木の葉のハンカチ・ネームタック」のブースを設置し多くの家族連れが、各施設の特色あるクラフト作りを楽しんだり、世界に一つだけのオリジナルクラフトに挑戦したりしました。



「感謝祭」

気球体験!

種別	内容	時間
⑧ スバルの丘	熱気球に乗って地上から妙高の大自然を楽しんでみませんか。 ※搭乗は小学生以下の子どものみです。 ※幼児は保護者の同伴が必要です。	【整理券配布】 8:30~ (総合案内所) 【搭乗】 9:00~ 12:00

屋台村スペシャル

種別	活動	内容	時間
① ロータリー	屋台村	妙高豚汁、わたあめ、焼きそば、たこやき、肉まん、フライドポテト、妙高華麗米カレー(妙高の食材たっぷり)、カートンドック、500ml ペットボトル、など ☆ポップコーンは無料です。	9:30~ 14:30
	屋食	バイキング料理(1人500円) 自然の家で提供しているバイキングメニューです。	11:00~ 14:00

全体案内図

☆自動販売機はコスモス銀翔様にあります。

☆ポップコーン無料!
※なくなり次第終了

☆総合案内所
☆寝袋早たみ競争受付

妙高プログラム体験!

種別	活動名	活動内容	活動時間
⑦ 源流探検	源流探検	周辺を流れる小川を探ります。水辺を好む植物や水生生物を見てみませんか。	9:30~、10:30~ 13:00~、13:30~ ※雨天でも屋外で行います
	ネイチャーゲーム	自然物を使ったゲームを通して、自然に親しんでみませんか。	① 10:00~ ② 13:30~ ※雨天でも屋外で行います

妙高ステージ発表!

種別	発表団体	発表内容	時間
⑥ 特設ステージ	国立妙高青少年自然の家	オープニングセレモニー	9:15~
	ときわ保育園	鼓隊	9:45~
	妙高小学校金管部	合奏	10:00~
	上越教育大学	アカペラ	10:15~
	上越教育大学	ストリートダンス	10:35~
	マジシャンKAZ	マジック	11:00~
	子ども体験遊びリンピック	「寝袋早たみ」	11:40~
	妙高中学校吹奏楽部	合奏	13:00~
	上越教育大学	アカペラ	13:20~
	上越教育大学	ストリートダンス	13:40~
マジシャンKAZ	マジック	14:00~	
国立妙高青少年自然の家	感謝祭フィナーレ	14:45~	

クラフトにチャレンジ!

種別	活動名	活動内容	時間
③ スキールーム	白樺の壁掛け	幅20cmくらいの輪切りの白樺に自分の好きな絵や文字などを書いてオリジナルの壁掛けを作ります!	9:30~ 14:30
	小枝のモックン	木の枝に目玉をつけてお気に入りのキーホルダーを作ります!	
	マイスプーン	自然の木の枝を見つけて、世界に一つだけのオリジナルスプーンを作ります。	
	木の葉のハンカチ	木の葉をスタンプにしてハンカチをデザインします。	
	ネームタック	木の輪切りに作るワッペンです。	
④ クラフトルーム	木板鍋敷き	木板鍋敷き	14:30
	コースター	コースター	
⑤ スキールーム	ドラングリランド・ウッドディープレート・クルクルシヤボン玉	ドラングリランド・ウッドディープレート・クルクルシヤボン玉	14:30
	若狭の塗り箸	若狭の塗り箸	

防災学習キャンプ

防災学習キャンプ運営のポイント

① シンポジウムから「今」を学ぶ

防災学習シンポジウム 総合コーディネーター
上越教育大学 大学院学校教育研究科教授 藤岡 達也 氏
防災学習シンポジスト 「学校防災教育部門」
釜石市立釜石小学校 教諭 菊池 国浩 氏
防災学習シンポジスト 「ポランティア活動部門」
新潟青陵大学 看護福祉心理学部 福祉心理学 准教授 中野 充 氏
防災学習シンポジスト 「復興支援部門」
国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 鈴木 昭博 氏



② 自然の二面性を学ぶ

自然の持つ「恵み」と「恐ろしさ」の二面性の理解を通して、「自然」と「人間」との関わりを改めて考えることができます。
例えば自然の家の立地している妙高市は豊かな自然環境を生かした農作物やスキー場、温泉などの自然の恵みを受けています。しかし、一方で火山噴火、豪雪、斜面崩壊などの大きな災害とも関連しています。
私たちはこのような恵みと災害といった自然の二面性を理解し、自然との共存を考えることは防災教育において重要な視点となります。
また、自然の二面性に触れることが地域を理解し、地域を愛することにつながると思います。

③ 避難所生活の体験を通して学ぶ

昨年の東日本大震災後、全国各地で災害に対する様々な取り組みが行われています。その中で、「避難所生活」を体験することは、いろいろな気づきが得られます。体育館の床が冷たいこと、足音が響くこと、一緒に生活している人の音が気になるなど、普段気づかないことに気づかされます。この気づきが大切です。日頃の備えや心構えとして、何を準備するか、一緒になった人とのようにコミュニケーションを図っていくかなどを考えることができます。



流れを重視したシンポジウム内容
防災教育 「釜石小学校の事例」
災害が起きたときの対処や防災マップを作成するなど、具体的な防災教育を学校にて実施しています。
災害時 「釜石小学校の事例」
釜石小学校の児童全員無事 これは防災教育の成果です。
震災後 「新潟青陵大学の事例」
復興支援ボランティア活動を実践し、延べ10回380名の学生や教職員が参加しています。

復興に向けて 「那須甲子青少年自然の家の事例」
福島未来を築いていく子どもたちに夢と希望を持って、力強く歩んでいってもらうために、様々な体験を通して、福島復興の方策を検討し、その成果を那須甲子から世界に向けて発信しています。
防災教育の重要性を再確認し、復興に向け様々な方が協働して、今を一生懸命に生きていることがわかりました。



④ 新潟青陵大学の学生の力 (以下学生)

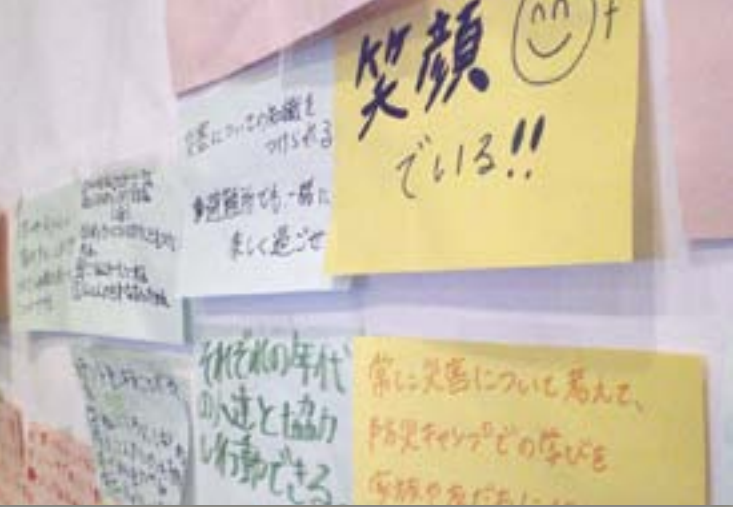
60名の学生が自ら手を上げて、この学習キャンプに参加してくれました。
東日本大震災後、学生の有志による「災害ボランティア学生本部」が結成され、計10回にわたる現地へのボランティア活動が実践されました。その中で、汗をかき、親身になって被災された方と協働するなど貴重な経験をしています。このような経験は、社会の一員として共に生きる喜びを目的に感じたいことと思います。
このような取り組みを経た学生が、是非「高度でもできることを」をスローガンに参加してくれました。一緒に参加している家族に対して、きめ細かい配慮やサポートをしていただきました。また、炊き出しや避難所運営に力を注いできました。



防災学習キャンプを通して見えたこと 今私たちができること

参加者一人ひとりが「今私は何ができるだろうか」ということを改めて考える学習キャンプになりました。小さなことや身近なところから、できることをしていこうという意識に変わっていったと思います。それは学習キャンプのまとめで、参加者全員がメッセージカードを作成しました。小学生1年生から70代の方まで様々な方が、自分のできることを書き出し、書き出しました。書くという作業は自分の思いを整理し、再認識することができる

ます。さらに一歩踏み出す原動力となります。
このような学習キャンプを通して、まずは、「気づく」。自分のできることを再認識する。そして、一歩踏み出す。この力を身につけることができたと思います。



自然の家で挑戦

ちょっとした時間に

学級活動に

体育の導入に

「なかまづくり」活動



目安の時間
2時間

ストレートハイク

森の中をコンパスを頼りに、通なき道を真っ直ぐ歩きます。途中、川や建物・木にぶつかり、進路をふさがれ真っ直ぐ進むことが困難となる場面に遭遇します。その際、必然的にグループの中で話し合いが生まれます。コミュニケーションや協力することが、この活動のポイントとなります。



道具 (団体・個人で用意するもの) 帽子、軍手、長袖、長ズボン、カップ、タオル
(自然の家で用意するもの) コンパス、長靴、資料

やり方 自然の家の周辺で行います。
(指導者・引率者が行う事前準備)
・スタートとゴールの位置を決め、角度を調べておきます。
※ゴール地点は、ふりかえりをすぐ行えるように一カ所にし、その場所に集まっていくコース設定をお勧めします。
・スタートとゴールの場所、角度は指導者のみが知っている情報です。
・コース例として複数のコースを用意しています。複数の班が同時に行えます。
・指導者内でコンパスの使い方を確認しておきます。
・実際にスタートからゴールまで、実施踏査を行い、危険箇所や当日の指導者の配置等を確認してください。

活動
①スタートからゴールまで道なき道をまっすぐ進むこと、スタートとゴールは場所ではなく「点」であり、角度通りまっすぐ行かないとゴールには行き着かないことを説明します。
②コンパスの使い方を説明します。
③スタート地点にグループを連れて行き、スタート地点と角度を伝えます。ゴール地点は伝えません。
④指導者は活動中、各グループに引率するか、危険箇所に配置して安全管理を行います。
⑤ゴール地点には、あらかじめ指導者を配置し、必要以上先に進まない様に配慮します。
⑥ゴール地点に来たグループから、それぞれのグループで自分たちが思うゴール地点を決めてもらいます。
⑦すべてのグループがゴール地点を決めたら、正解を発表します。
⑧ふりかえりを行い、グループ内でどのようなかかわりがあったのか、その時感じた気持ちなどを共有します。

ここがポイント!

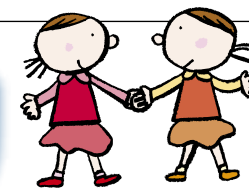
- コンパスの持ち方は、体の正面に水平に持ち、進行線が自分の進む方向や目標物に向けて持ちます。コンパスの向きを変える場合、コンパスだけを動かすのではなく、体全体を動かします。
- 一つのスタート地点から数グループがスタートする際は、前のグループから10分程度間隔をあけてください。
- 全グループが一つのゴール地点を目指す際、全員のゴールが同じということは参加者に伝える必要はありません。

夏期に限らず、冬期に雪上でストレートハイクを行うこともできます。かんじきやスノーシュー、歩くスキー等をはくことで、新雪の上でも移動することが可能です。

学校で使える

自然の家で人気の「人間関係づくりプログラム」を紹介します。

「なかまづくり」活動



目安の時間
15分

みんなでタッチ

2人組から4人、8人…全員の輪へ! 成功したら、一体感を味わえます。

道具 特になし

やり方

- ①まず、2人組を作り、向かい合います。
- ②2回拍手します(自分)
- ③相手と両手をタッチします **1回** (相手or円の隣の人)
- ④2回拍手します(自分)
- ⑤相手と両手タッチします **2回** (相手or円の隣の人)
- ⑥2回拍手します(自分)
- ⑦相手と両手タッチします **3回** (相手or円の隣の人)
- ⑧2回拍手します(自分)
- ⑨相手と両手タッチします **4回** (相手or円の隣の人)
- ⑩2回拍手します(自分)
- ⑪相手と両手タッチします **5回** (相手or円の隣の人)
- ⑫今度は⑩→⑨→⑧と、逆の順番に②まで戻ったら、終わりです。



ここがポイント!

- 2人組で成功したら、4人組、8人組…、全員で輪になって挑戦します。
- 自分と相手のリズムを合わせてやります。
- 全員が成功した!と感ぜられるまで何度でも挑戦します。スピードやかけ声など工夫しましょう。クラス全員や学年全員、または全校で挑戦できます。時間があれば、練習を重ねて全員の呼吸ピッタリの完璧なタッチができるはず。最高にうまくできたとき「やったー!」と歓喜の声と共に、一体感を味わえます。

目安の時間
4時間

びっくり野外炊事

このプログラムのキーワードは、コミュニケーション、協力・協働、仲間づくりです。従来の野外炊事は、調理するメニューが決まっている場合がほとんどですが、この活動は、提示された食材から自分たちでメニューを考えて調理する「課題解決型野外炊事」です。



道具 (団体・個人で用意するもの) 洗剤、かねだわし、スポンジ、ふきん、ぞうきん、マッチ or ライター、新聞紙、軍手、うちわ、ゴミ袋
(自然の家で用意するもの) 野外炊事用具一式、まき、食材

やり方 自然の家の周辺で行います。
(指導者・引率者が行う事前準備)
①自然の家に来る前に・事前打ち合わせの時に
・食堂の野外炊事のメニューから人数に応じたメニュー準備します。
※例: 煮込みうどんと野菜炒めセットとカレーライスなど、人数に応じて複数のメニューを組み合わせるとよいです。※詳しい食材内容については、「利用の手引き」を参照。
②活動を始める前に、用意されたメニューの食材を同じ食材でまとめて並べておきます。この時、カレーやお好み焼き等で、作り方が記載されている箱や袋からは、取り出しておくといでしょう。

活動
①食材を全体に提示し、「びっくり野外炊事(ランチ・ディナー)」について説明を加えながら、食材を確認していきます。例) ここにある食材を自由に使って、自分たちの創造性を働かせ、メニューを考えて料理を作りましょう。
②食材を見て、グループで何を作るか、そのために何が必要かを考えます。(用具等も含む)
③提示された食材から自分たちが考えたメニューに必要な食材を選択します。
④使いたい食材や道具等が重なった場合や食材が残ってしまった場合は、その場でグループに解決方法を考えさせます。
⑤会食開始時刻を定めて、調理を開始します。
・包丁の使い方や管理、火の取り扱い等、安全に特に留意します。
⑥会食の方法は、バイキング形式で会食する他のグループのものも食べることができ、楽しさが倍増します。

ここがポイント!

- 指導者は、子どもたちの話し合い活動を見守り、時間が十分にたれるようにすることがこの活動での大切なポイントです。
例) ・食材を選ぶ時やメニューを考える時の時間
・グループ同士の対立が起きたときの話し合いの時間
- 子どもたちが、安全を確保するという学習の観点から、火の扱い、包丁の扱い、なたの扱い等には十分注意してあげましょう。
- 楽しい雰囲気や食事が進められるように「いい考えだね」「おいしいものができそうだね」などと意欲を喚起する言葉がけをしましょう。

話し合いでは、Win-Loseの対処方法よりもWin-Winの考え方で解決させます。
会食前に簡単に、料理名やワンポイント工夫など「自分たちの料理についての思い」について発表し合ひましょう。
会食後に「ふりかえり」の時間を設定し、感じたことを共有します。次の活動に生かしていけるようにしましょう。

目安の時間
20分

大縄くぐり

大きく回る縄にひっかからないように連続でくぐり抜けます。全員が連続でできたら最高の達成感!

道具 大縄1~4本(人数によって決定)

やり方

- ①最初は2~4人組くらいがいいでしょう。みんなで手をつないでタイミングよく大縄をくぐります。
- ②「いっせーの、せっ」等、かけ声をきめてくぐりましょう。慣れてくると連続くぐり抜けができるようになります。
- ③今度は8人組、16人組で列をつくって…。最後は、クラス全員が連続でできたらすごいですね。



ここがポイント!

- 人数が増えれば増えるほど、グループで協力する力が必要になります。リーダーの位置や声掛けの方法など、様々な工夫が生まれます。
- 発達段階に応じて、飛び越し、連続くぐり抜けなど難易度を上げることができます。また縦割り班などでも活動できます。
- 大縄一本で、手軽に行えます。協力する力を実際に感じることで、大人数になるほど、おもしろく、大きな達成感が生まれます。



妙高で子どもたちに自然体験を

子どもたちに
もっと自然体験をさせたい！

これはこの国立妙高青少年自然の家が設立された当時から掲げられているメッセージです。「そして次代を担う、たくましく、心豊かな青少年を育成していきたい。」そんな願いを込めています。

妙高には四季折々の風情にまつまれた美しい自然があります。これらの自然は必ず、子どもたちに本物体験や感動体験をもたらせてくれます。もちろん中には自然が与えてくれた試練や、仲間とのトラブルが必ず発生します。そこから協力する必要性も生まれ、乗り越えたいという意欲も生まれていきます。そしてこれらの体験は必ず、子どもたちの確かな力となって、より大きな成長を促してまいります。

わたしたちは、このコミュニケーションマガジン「Open The Door to VOI」で紹介しているように、様々な事業を通して、子どもたちの発達段階やねらいに即したプログラムを開発し、より感動や学びが深まるための体験活動のあり方や、支援のあり方を研究しています。そして手に入れた体験活動の教育的手法は、この国立妙高青少年自然の家を利用してくださる皆様に、より充実した活動を行っていただけるような支援を行うために活用されています。

幼稚園・保育園の小さな子どもたちの遊びからはじまり、小学生・中学生の自然体験活動、あるいは課題を抱

える青少年への体験活動や、大学生を対象とした研修など、様々な発達段階に応じ、そしてねらいにあった活動が、より安全に、より効果的に提供いただけるよう、心を入れてお手伝いを行います。

今年度は13万人を超える皆様が妙高で本物の自然体験を行いました。

ぜひ、国立妙高青少年自然の家で、自然体験活動を行いませんか。私たちが全力でサポートさせていただきます。皆様のおしそを心よりお待ちしております。

自然体験活動 わたしたちがサポートします！



私たちも子どもたちの自然体験活動を応援しています。

国立妙高青少年自然の家では、平成24年度に下記の方々からご寄付をいただきました。(敬称略・五十音順)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 朝日酒造(株) | (株)渡辺リネン |
| 安藤スポーツ財団・食文化振興財団 | 頸南バス(株) |
| 家'Sハセガワ(株) | 国際自然環境アウトドア専門学校 |
| 大塚製薬(株)長岡出張所 | 高坂防災(株) |
| 岡本 鉄朗(岡本石油) | 小山(株)新潟営業所 |
| (株)大谷ビジネス | 新星建機工業(株) |
| (株)謙信堂 | 永田印刷(株) |
| (株)スワロースキー | 新潟みらい建設(株)上越営業所 |
| (株)高館組 | 日本ペプシコーラ販売(株)上越支店 |
| (株)第一印刷所上越支店 | ホシザキ北信越(株)上越営業所 |
| (株)桐朋 | 三国コカ・コーラボトリング(株)上越支店 |
| (株)ニッコトラスト東日本 | 妙高観光開発(株)妙高カントリークラブ |
| (株)パーツプロダクション | (有)アイビーオート |
| (株)丸山酒造場 | (有)白星社 |
| (株)横瀬オーデオ | |

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

Open the Door! Vol.7 平成 25 年 3 月発行



独立行政法人
国立青少年教育振興機構

国立妙高青少年自然の家

〒 949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2

TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325 <http://myoko.niye.go.jp/>